

伊達な
国際交流員の
つれづれコラム
vol.96



「仕事の文化」
Work Culture

英訳版を
見る▶



日本について約20年学んできました。その中で、仕事の文化が母国とは異なると感じたところを紹介していきます。

アメリカでは、もし勤務時間が午後6時までであれば、通常は午後6時ぴったりに退社します。残念ながらこのような考え方は日本だとあんまりいい印象を与えないかもしれませんね。外国人としては不自然に感じますが、日本では仕事の終わり時間から少しだけ追加で仕事をしてから退社することが多いです。

日本では若い社員を解雇することが多く感じますが、アメリカでは年配の人が解雇されることが多いです（給与が高いことが理由だと考えられます）。30年以上その会社で働き、家族を持つ人たちが、解雇されることはとても心苦しいです。

また、アメリカでは、コンビニやレストランに行くに従業員がため息をついたり、ガムを噛んだり、携帯電話を見たりして、レジでお客さんに対しても無関心なことがあります。こういったことが日本でも起こったらどうなってしまうのか想像できませんね。

どんな仕事でも最善を尽くそうとする日本人の姿勢は、本当に素晴らしいです。誇りに思ってください！（イボンヌ）

地域の魅力
ふる里再発見

収蔵品展

令和6年度第3回企画展
「収蔵資料展～ふるさとの山 霊山～」

5月6日(祝)まで
伊達市保原歴史文化資料館

▶ 採集したガラス瓶



伊達市東部にそびえる霊山は、登山などレクリエーションの場として有名です。そして、そこにはさまざまな歴史が眠っています。

それを語ってくれるのが、写真のガラス瓶です。見覚えのある形やロゴに、味を思い出した人もいるのではないでしょうか。また、これが歴史？と思った人も多いのではないのでしょうか。実はこれは、霊山の紫明峰しめいほうで採集されたものです。

この瓶は時代によって形やロゴが微妙に変化しています。写真の瓶は淡い緑色をしているので、通称「グリーンボトル」と呼ばれています。こういった瓶は、第二次世界大戦（1939～1945）終結後、日本にアメリカ軍が進駐していた時代（1945～1952）に、アメリカ兵

やその関係者だけが飲んでいたものと分かっています。

実は、霊山の紫明峰には、1958年までアメリカ軍の無線中継所がありました。日本の普通の人は飲むことができない瓶ですから、そこで仕事をしていたアメリカ兵が飲んだものと考えられるのです。異国の山頂で任務についていたアメリカ兵たちは、馴染みの味を楽しみながら休憩していたのでしょうか。

このように、一見、とても新しく見える品物も、場所とあわせて考えることで、新しい価値を見出すことができます。



▶ 無線中継所跡に残る暖炉
（福島県文化振興財団
佐藤 俊氏 撮影）

にじいろのだて（男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介）

『ジェンダー平等』… 性別に関わらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることを意味します。男性と女性は身体づくりは違っていてもみんな平等です。

